

# 青梅市文化財ニュース

第342号

平成28年4月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859）

## 青梅市内の坂（1）

昨年12月5日から本年1月31日まで、青梅市郷土博物館において、企画展「青梅の峠と坂」が開催されました。その展示の一角に、「青梅市内の坂の名前を教えてください」というコーナーが設けられていました。このコーナーには、来館者の皆さんから、坂の名前を教えてくださいという趣旨で、市内の地図とアンケート用紙を設置しました。

古くから人々が往来してきた坂には名前がついていた筈ですが、道幅を広げたり、道を付け替えたりすることで、坂の名前も消えてしまいがちです。そこで、企画展開催期間中に、アンケート用紙などで来館者の皆さんから寄せられた情報に基づき、地図に載らない坂の名前がどのくらいあるのか、調査を行いました。

まず、青梅市内には、どのような場所に坂があるのでしょうか？東青梅地区から東側は、広大な武蔵野台地の西部に位置しており、緩やかに東方へ傾斜してはいますが、平坦な土地なので、坂はほとんどありません。市の中央には、西から東方に向かい、多摩川が流れています。また、永山丘陵から東へ、入間市方面に向かって霞川が流れています。多摩川や霞川の両岸は、階段状の地形である河岸段丘となっています。そして、下位の段丘面と上位の段丘面をつなぐ道路は坂となっています。アンケートと聞き取り調査からも多摩川、霞川沿いには名前の付いている坂が多くありました。

調査からわかった、名前の付いている坂とその由来についてご紹介します。

### ① 車坂（友田町）

友田町三丁目、友田駐在所西側と多摩川河川敷を結ぶ坂。坂名の由来は、多摩川に水車があり、そこに通じる坂であるということに由ります。水車のことを、明治時代までは車と呼び、精米や製粉を行っていました。坂の近くには、今でも「坂口」という屋号の家と、「車」という屋号の家があるそうです。現在では、坂のあった場所に建物が建ってしまい、当時の面影は残っていないということです。

## ② 豊坂

友田町三丁目、友田保育園の東側と多摩川河川敷を結ぶ坂。坂名の由来はわかりません。坂の途中には石仏が祀られており、付近からは水が湧き出しています。かつて豊坂の下には広い畑があり、人々が耕作のために坂を利用していたと思われます。また、多摩川には、大正9年に多摩川橋が架けられるまで、友田地区と対岸の羽村市小作地区を往来する仮橋と、夏から春は渡し舟があり、両地区の住民が利用していました。豊坂は渡し場への坂でもあったようです。

## ③ 二次坂（ふたつぎざか）

千ヶ瀬バイパス沿い、千ヶ瀬二丁目信号北側と青梅市役所南側を結ぶ坂。坂名の由来はわかりませんが、寛文8（1668）年の武州多摩郡三田領千ヶ瀬村検地帳に「二次キ通り」という記載があることから、二次という字名によるのかもしれませんが。江戸時代から人々が往来していた坂です。

## ④ ドンドコ坂（ねえがま坂）

千ヶ瀬町四丁目にある（株）千ヶ瀬工業西側と青梅織物工業組合付近を結ぶ坂。坂名の由来は、近年、坂の途中に日蓮宗の寺院が出来、そこで打ち鳴らされる太鼓の音に由ります。古くは「ねえがま坂」と呼ばれていたようですが、由来はわかりません。

## ⑤ 車坂（千ヶ瀬町）

千ヶ瀬バイパス沿い、千ヶ瀬町六丁目にあるコンビニエンスストア南側と公共下水道千ヶ瀬中継ポンプ場付近を結ぶ坂。坂名の由来は、坂を下りた多摩川に水車があったことに由ります。坂の近くには、「車」、「キヌブルイ」という屋号の家があります。また、坂の上には祠があり、馬頭観音が2基祀られています。

## ⑥ 地藏向き坂（づづみき坂）

豊岡街道沿い、野上町二丁目にある大門交差点と塩船方面を結ぶ坂を「地藏向き坂」と言います。古老の言い伝えによると、かつて大門市民センター西側にお地藏様があり、塩船方面から来ると、霞川を渡り、坂がお地藏様の方に向かっていたので「地藏向き坂」と呼んでいたということです。「じぞうむきざか」は、長い年月の間に訛り、「づづみきざか」と呼ばれるようになってしまいました。

（文責 小島みどり）